

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット1階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	令和4年1月10日	外部評価結果確定日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年2月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街にも近く、交通の便の良い住宅街に立地しています。割烹をしていた経験から、食事やおやつは手作りし、旬の食材を取り入れ、栄養管理を行い、陶器の食器を使用して盛り付けにも心配りしています。ちゃんぽん、皿うどん、天ぷら、茶碗蒸しや季節毎の行事食はご入居者様からも好評です。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、ご入居者様やご家族様が安心して適切な医療を受けられるよう支援しています。ご入居者様にも玉葱の皮むきや盛り付け、洗濯物たたみ等、個々の力に応じて参加していただいています。職員一同、明るく家庭的な雰囲気大切に、ご入居者様一人おひとりを尊重した介護に努め、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させていただきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの特徴的な取組みとして、1つ目は理念の行動指針を作成する際、職員皆から意見を集約するプロセスを経ている点は、職員が自分たちのホームの方針を自分たちで決めるといふ帰属意識にも繋がりがり一体感が発生する。また身体拘束をしないケアの実践の中でも、不適切なケアやグレーゾーンの領域を職員皆で協議することで、ホームの傾向や課題を自分たちで明確化している。このように皆で考え、皆で動く思考が形成されている。2つ目は運営推進会議の取組みの中で、コロナ禍以前より多くの関係者から意見を集約する仕組みはできていたが、特に回覧型になってからは、ご家族様からの意見を反映する機会が増えてきている。また、回覧する資料の中に、一般の人でも役に立ちそうな職員研修の資料を添付する等、参加者が関心を持つような工夫を行っている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念を見える所に掲示して毎朝唱和し、念頭に置いて介護させていただいています。またユニットの目標を毎月1つ決めて、理念と併せて唱和し、取り組んでいます。	法人の掲げる理念を実践に繋げるため、課題と捉えている項目は、接遇面がポイントになっているとのことであった。全くできていないわけではなく、職員によってはわかりやすく説明する必要があったり、その都度振り返りを要する場面がある。現在、理念に基づく行動指針を作成中とのこと、職員から意見を収集して集約しているところまで進捗を確認した。	理念の行動指針の作成について、職員からの意見収集とまとめの作業までは終了しているとのことであった。指針の文言については、可能な限り「コンパクト」「わかりやすい」をキーワードにして、職員が行動に移しやすい内容や表現にすることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で保育園や近所の方との交流は出来ませんが、2月に1度書面会議で開催している運営推進会議には自治会長様、民生委員様も参加され、情報交換での交流をさせていただいています。	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との関わりは持ちたくてもリスクが高くてできていない状況とのことであった。法人はコロナ禍以前は外部からの意見や訪問は良い刺激になるという考えで積極的に受け入れていた。今後終息してきたら、以前のように地域住民との関わりや、保育園との交流、ご家族様を含めたイベントの開催等実施していく方針であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、ご入居者様の日々の暮らしの様子や行事の様子等をお伝えしたり、認知症についての理解に役立てて頂ける様、研修資料を添付する等して、勉強になったというお声もいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、2ヶ月に1度書面会議を行い、市の職員、自治会長様、民生委員様、ご家族様に返信用紙を添えて、様々なご意見、ご感想を頂き、ホームの運営に活かすように努めています。	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ホームに集合して開催することはできず、2カ月に1回書面を回覧して実施している。回覧先はご家族様、行政機関、ホームの所在する自治会関係者が主となっている。回覧先が多いため、それだけ質問や問い合わせがあつているようで、1つ例を挙げるとヒヤリハット報告の内容や件数を毎回報告しているが、「具体的な内容を示してほしい」との依頼があり要望に対応したとのことであった。コロナ禍で集合できないことが全てマイナスではなく、書面をご家族様に回覧することで、普段参加できない方からの意見を収集することができるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議(書面会議)では市の職員も毎回参加され、コロナ禍での留意点など、現状に合わせたアドバイスをいただいています。	行政機関との主な関わりは、運営推進会議に参加する職員とのことであった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、書面回覧となっているため文書でのやりとりが中心となっているが、新しい情報(感染予防や対策等)を教えてくれたりして、とても役に立っているとのことであった。この他にも市の生活福祉課や福祉総務課とのやり取りを通じて、運営面全般の協力体制は確立している。今後コロナ禍が明けたら、介護相談員の受入れを再開したいとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回職員研修を行い、身体拘束の弊害や緊急やむを得ない場合について正しく理解し、身体拘束をしない為のケアに取り組んでいます。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムで見守りを行っています。	まず職員が身体拘束や虐待に対する正しい知識を習得するために、法人の研修計画に基づいて定期的な研修を実施している。その他にも正しい知識を得る機会として、不適切なケアの内容を職員皆で出し合って共有したり、その言動はどうか迷うケースを整理してまとめる等の工夫を行っている。管理者はご入居者様に対して馴れ合いや上から目線の言動とならないように注意を払っているが、同時に職員にも気を配って、ちょっと一息、お茶でも飲んでリフレッシュしてもらったり、勤務予定表を作成する際に、連続勤務を回避したりして、職員のストレスや疲労の軽減に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回職員研修を行い、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、ホーム内で虐待が起こることの無いよう、不適切ケアの改善に努め、毎月ユニットで接遇目標を立てて取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修等で学ぶ機会を持ち、個々の事例については、必要に応じて、地域包括支援センター等と相談しながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して、入居前に説明し、不明な点がないか確認し契約しています。改定についてもご家族に事前に連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様からの相談や意見、要望等は、どの様な事でも記録して職員間で情報を共有し、個々の判断ではなくホームとしてきちんと対応するようにしています。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ご家族様の面会等に制限が加わり、以前のように対面で意見を聞いたり、情報交換する機会はほぼなくなった。しかし、このような中でもご家族様より受け付けたことは、連絡ノートに記して職員間で共有している。ホームとして工夫している点は、少しでも気づき等を表出してもらえるようにご入居者様のホームでの様子を写真で送ったり、LINE(コミュニケーションアプリ)で相談を受けたりしているケースであった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、日頃から管理者が吸い上げてホーム長へ上げ、検討事項は毎月職員全員参加でユニット会、全体会を開催して話し合うようにしています。	以前は2ユニット合同で全体会議を開催していたが、現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、可能な限り職員同士の接触を減らす目的で別々に会議を行っている。全体会議では運営に関する報告や連絡があるため、ホーム長が参加して職員と意見交換をする機会を設けている。普段の業務の中で管理者が意見を引き出すために工夫している点として、まずは職員との信頼関係を重視して、ちょっとしたことでも職員を褒めることを意識しているとのことであった。指導する際も良くない点の指摘もするが、同時に「この点は良かった」と指導の中にも職員を承認する姿勢を確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行い、職員が交替で担当し、管理者と共に研修内容を検討し、実施しています。また、外部研修やグループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族様が困っていることや不安に思っていること等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族様の意向に沿って、福祉用具のレンタルや病院受診等、協力して支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の有する力に応じて、洗濯物たたみや玉葱の皮むき等を職員と一緒に参加して頂き、家庭的な雰囲気の中で、共に暮らしを作っていくような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して生活して頂ける様、ご家族様との連携を密にして、電話や毎月のかわびら通信で、ご本人の思いや日頃の様子、体調の変化等を報告し、共にご本人を支えていく関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限される中でも、電話やビデオ通話、手紙等で、関係が途切れないような支援に努めています。	現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で面会や外出の機会が以前のように確保できず、関係継続の支援をしたくてもどうしても制限がかかってしまうとのことであった。しかし、このような環境下においてもホームとして工夫している点は、あるご入居者様が以前生活していた自宅のご近所の方の名前を忘れてしまった際、ご家族様にお願いして動画や写真を送ってもらう等実践した結果、思い出した例をヒアリングの中で確認した。現在のコミュニケーション機器を用いた、関係継続の好事例と言える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう、ご入居者同士が自由に集える居場所作りをしています。ご入居者同士声を掛け合い、お世話をしたり、悩み事を相談し合ったりして、安心につながっているようです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、様子伺い等を行い、ご家族様からの相談には出来る限り応じられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やケアプラン見直し時にもご本人の思いや意向を伺い、かわびら通信の中にも記入欄を設け、ご家族様の協力も得ながら、可能な限り対応できる様、ユニット会でも検討しています。	月1回、ご家族様に送付しているかわびら通信の中に、本人の願いを記載する欄を設けている。急ぎで対応してもらいたい場合には、ご家族様へ電話をする等対応をしている。誕生月の方は、写真とともに本人の思いを書き、ご家族様に送っている。言葉を発することが難しいご入居者様の場合には、推測して意向などを把握するようにしている。大声を出して思いを伝える方もおり、その場合には体位を変えたり、パットを試みる等、その人に応じた対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族様からの話を聞いたり、生活歴を可能な範囲で書いて頂き、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や職員間の情報共有等によって、過ごし方や心身状態、有する力等の把握に努めています。ケアプラン見直しの際は、担当者がアセスメントを行い現状の把握に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が、ADL、心理社会面、医療面等からなるケアチェック表で課題を見つけ、ご本人、ご家族様の意向を踏まえた介護計画の原案を基に職員全員参加のカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	入居してから、居室担当者が記載するケアチェック表に基づき、本人の思い、楽しみ、困っていることなどを中心にケアプランを作成するようにしている。ご家族様からは、健康で過ごしてほしい、転ばないようにしてほしい、声かけを多くしてほしい等の意向がある。医者の指示で、ご飯の量を減らさないといけない状況や、精神科通院している方は日々の様子を記録するようにという方は、ケアプランに取り入れている。モニタリングは6ヶ月ごとに行っているが、介護度が重くなった場合時等、必要に応じてケアプランを作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は、介護計画に沿ってご本人の思いや職員の気づき、体調変化等を記入、情報共有し、個々にケア目標を立て、実践結果と評価をを実施表に記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の購入や修繕、病院受診や福祉用具の選定等、ご本人の状態やご家族様の意向に応じて、柔軟な支援ができる様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で休止していますが、近隣の保育園児が毎月交流会に来所されたり、近所を散歩する際は、自治会の方が整備される花壇を見せて頂いたり、声をかけて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の同意のもと、かかりつけ医の往診を受け、所見は毎月ご家族へ郵送しています。24時間連絡体制を確保し、ご家族と病院との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	内科、歯科は1階と2階で別々のかかりつけ医から、往診をしてもらい、皮膚科は1階も2階ともに同じ皮膚科から往診をもらっている。入居時には、ご入居者様それぞれ、かかりつけ医がいるが、内科に関しては、ホームのかかりつけ医が24時間体制できることを説明すると、ほとんどの方が納得をしておかかりつけ医を変えたとのことである。心療内科や整形外科などは家族同行で受診をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的に訪問し(現在はコロナ禍でビデオ通話を実施)、ご本人との問診や体調変化等の相談を行い、適切な受診につなげられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中はご家族、病院との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、契約時に指針を説明し、同意を得ています。入居時点での意向をお聞きし、重度化した場合には、随時ご家族、かかりつけ医、ホームで話し合いを行いながら支援します。	過去に看取りをしたことはあるが、平成28年以降は病院へ入院をして、そのまま退所するケースが続いているとのことである。入居の時に、看取りは実施しているが、主治医が対応できる状況である、ホームが対応できる状況、ご家族様がすぐにつけてもらえる協力があるかを話した上で決めると説明をしている。ホームでは要介護5のご入居者様がいるが、ご家族様から希望があれば、別の施設を探す等は対応可能であり、継続的にホームで出来ることはしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置し、消防署の指導を受けて心肺蘇生、AED使用の訓練を行い、緊急時に実践できるように備えています。また、急変時はすぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示の下対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防・防災訓練の年間計画を立て、火災、地震、水害、防犯を想定した訓練を実施しています。消防署立ち合いの訓練には自治会長様にも参加していただき(コロナ禍では運営推進会議での報告)、地域との協力体制を築いています。防犯カメラを設置、当日の人員点呼表を掲示しています。	運営推進会議の報告書に写真付きで、避難訓練を実施したことを記載しており、わかりやすく報告をしている。訓練は火災だけではなく、地震、大雪、台風、水害、防犯も実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画の中に「接遇」「個人情報・プライバシー保護」の研修を組み、チェックシートから抽出された課題に沿った内容の研修を行っています。毎月ユニットの接遇目標を決め、職場全体で取り組んでいます。	接遇に関する研修を年1回は実施するように、年間計画に組み込んでいる。日々の支援の中では、ご入居者様の前では他のご入居者様の話をしない、ご家族様との関係性をよく把握して、子どもがいない方には子どもの話をしない、家族とあまりうまくいっていない方には、家族の話をしないなど、顔色を見ながら声をかけるように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の各場面で、分かりやすく説明して、無理強いをせず、ご本人の意向を確認しながら、意思表示や自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、1日の大まかな流れはありますが、お一人おひとりのペースやその日の体調に合わせて、無理なく、出来るだけご本人の希望にそって過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや着心地の良い服を着て頂いたり、ご家族に用意して頂く際は、どのような服が良いか普段のご様子やご本人の好み等を伝えて支援しています。定期的に美容師さんがカットに来所されます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉葱やツワの皮むき、金柑の穴開け、吊るし柿作り等、お一人おひとりの力に合わせて参加して頂き、季節毎の食材が食卓に並んでいます。	デイサービスを併設しているため、献立は厨房の方やホーム長が作成している。食材は、業者へ発注をしたり、ホーム長が買い出しに行ったりしている。食事形態は普通食、ミキサー食、刻み食に対応しており、体重が減ってきている方等はドリンクやゼリータイプの栄養補助食品の食事を用意している。ご入居者様でできる方は、盛り付けの手伝いをしてもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの嚥下や口腔内の状態等に合った食事形態で提供し、水分摂取量の少ない方は、水分チェック表を利用して1日に必要な水分量を確保できるよう取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の診察と歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、毎食後の口腔ケアの声かけや磨き残しの仕上げ介助等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じて、食前や食後、休憩前等にトイレの声かけ、誘導を行い、排泄の失敗が減り、トイレで排泄できるよう支援しています。尿パットの着け易さ等、その方に合った物を検討しています。	排便に関しては、全員チェック表で管理をしている。排尿に関しては、必要な方のみチェックをしている。排尿や排便の訴えができない方に関しては、タイミングを見て声をかけたり、便が出そうな動きに気を付けている。オムツに関しては、できるだけご家族様に金銭的な負担にならないよう、業者とよく相談して、昼間は薄い物を使い、夜間は漏れ防止の為、しっかりとして物を使うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかり摂って頂き、整腸作用の為にヤクルト、牛乳を飲まれています。体操や歩行練習等で身体を動かして頂き、個々の排便チェック表を付け、便秘にならないよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分、外出の予定等に応じて、曜日や順番を調整し、脱衣所には冷暖房を設置し、入浴時の会話も大事にしながら、気持ちよく入浴していただけるよう支援しています。	週2回、午前中に入浴をしている。湯舟に入ることが難しい方は、シャワーと足浴で対応をしている。入浴を嫌がる場合には、曜日を変えて対応をしており、今は入浴を強く嫌がる方はいない。職員の人数上、同性介助はしていないが、男性職員は特に介護のプロという意識のもと、支援を行っており、男性職員だから入浴を嫌がるということもないとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を勧め、気候に応じて寝具や室温・湿度の調節を行い、安眠の支援に努めています。食後や入浴後等、その方の希望や状態に応じて、休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導により薬局にて管理し、職員が服薬の確認をしています。錠剤や散剤、大きさ等、その方に合った形態を相談し、お薬ゼリーも活用しています。症状の変化はかかりつけ医に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の花見や行事を計画したり、その方の生活歴や生活習慣に合わせて、読書や手紙のやり取り、ツワ剥きや吊し柿作り等、得意な活動への参加、個別の嗜好品等、楽しみや気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で受診以外の外出が制限されている中で、玄関先での外気浴の機会を作ったり、窓から外の景色を眺め、気分転換できるような支援に努めています。桜の時期には、感染予防に配慮しつつ、近くの公園まで花見ドライブに出掛けました。	コロナ前は、お花見、ランタン、おくんち等マイクロバスやデイスービスの送迎車で外出をしていたが、コロナ禍の為、外出ができない状況が続いている。現在は玄関先で日光浴をして歌を歌ったり、廊下を職員と一緒に歩いている。コロナが終息したら、お花見、お墓参り、自宅へ帰るなど外出支援をしていきたいとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者同士のトラブルを避ける為、お金はご家族に管理して頂いていますが、その方の希望に応じて、ご家族との間できちんと説明がなされ、ご本人が納得のいくように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会が制限される中では、特にご家族との交流を大事に考え、電話やビデオ通話、ハガキや手紙のやり取り等が出来るように、お一人おひとりに必要な支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた塗り絵や歌詞を貼り、飾り付けや、花を生ける等、季節感を採り入れるようにしています。温度湿度計を設置し、エアコンや床暖房、加湿器等で快適に過ごせるよう空調管理しています。	壁には、塗り絵や季節の行事が分かる工作が貼ってあった。共用空間では、録画をした演歌が流れていたり、動物のおもしろ動画や、時代劇などそれぞれの階で、テレビがついている。掃除は毎日職員が、掃除機とモップで行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下の長椅子では、気の合う方と談話や悩み事を相談し合ったり、廊下の小窓から一人で外を眺めたりと、思い思いに過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談して、使い慣れたダンス等を持ち込まれたり、ご家族やペットの写真、本や新聞、ラジオ、編み物等趣味の道具を置かれ、居心地よく過ごせるような工夫をしています。	整理ダンスや衣装ケースは各自で用意していただき、エレベーターが小さい為、大きなダンスの持ち込みは遠慮してもらっている。入居時には、本人が気にしている思入れがある物をできるだけ持参してもらおうようにしている。各居室には、エアコンがあるが、リモコンは事務所で預かり、職員が温度調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所に手すりを設置し、身体の状態に合わせてベッドの向きを工夫しています。居室の表札や「便所」の表示等、分かりやすく、安全で自立した生活が送れるような環境作りに努めています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら(ユニット2階)		
所在地	長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果確定日	令和4年3月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

街にも近く、交通の便の良い住宅街に立地しています。割烹をしていた経験から、食事やおやつは手作りし、旬の食材を取り入れ、栄養管理を行い、陶器の食器を使用して盛り付けにも心配りしています。ちゃんぽん、皿うどん、天ぷら、茶碗蒸しや季節毎の行事食はご入居者様からも好評です。主治医との連携により24時間連絡体制を確保し、ご入居者様やご家族様が安心して、適切な医療を受けられるよう支援しています。ご入居者様も玉葱の皮むきや盛り付け、洗濯物たみ等、個々の力に応じて参加していただいています。職員一同、明るく家庭的な雰囲気を大切にして、ご入居者様お一人ひとりを尊重した介護に努め、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念に基づき支援させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4270104351-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和4年2月10日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念を唱和し、念頭において介護させて頂いています。ご入居者やご家族にも見える場所に理念を掲示し、共感を頂いています。年に1度は全職員で理念を確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で楽しみにされている近隣の保育園との交流もできておりません。自治会長様や民生委員様との運営推進会議が開催できませんでしたが文章を回覧し、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文章にて、ご入居者の日々の暮らしの様子や介護させて頂く中での気付き、ホームの行事の様子、研修内容の報告等を行い、認知症の方への支援方法等の理解を深めて頂ける様に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍での書面会議を通し、暮らしの様子をお伝えし、意見をいただき、活かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はコロナ禍で実施できませんでしたので、文章にてホームの実情や取り組みを伝えて意見を頂いています。介護相談員が年1回ご入居者の話を聴きに来所されます。災害訓練や防犯、事故対応等、随時相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、2ヶ月毎に検討を行うと共に、年2回社内研修を行い、不適切なケアをしない為に、ホーム独自のチェックシートで自己評価し、日頃の対応を見直しています。玄関は昼間は施錠せず、センサーチャイムにて見守りを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回社内研修を行うと共に外部研修を受講し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、ホーム内で虐待が起こらない様、言葉遣いや対応方法を見直し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修を受講して職員間で共有する様にしています。個々の事例については必要に応じて、地域包括センター等の関係者と相談して支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は重要事項説明書に記載して、入居前に説明し、不明な点がないか確認し契約しています。改定についてもご家族に事前に連絡し、納得して頂いてから手続きを進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの相談や意見は受付記録に記入し、職員間で共有し、事業所として対応する様にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会、全体会を開催し、代表者と全職員が参加し、現場の問題提起、解決に向けた話し合いを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所独自の職務要件を定め、経験年数、資格、仕事ぶりに応じ、給与又は賞与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、職員が交替で担当し、管理者と共に研修内容を考え、実施しています。また外部研修やグループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、各種研修に参加し、他事業所との交流や意見交換を通して、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時や入居後もホームの生活に慣れて安心して暮らして頂ける様に、ご本人が困っていることや不安なことに耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族が困っていることや不安なこと等に耳を傾け、入居後しばらくは、特にこまめに連絡を取り合い、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族の意向に沿って、リハビリへの通院や病院受診等、協力して支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力に応じて、盛り付けや食材の下ごしらえ(玉葱の皮むき)、新聞折りやゴミ袋作り、洗濯物たたみ等、出来ることは職員と一緒にして頂き、暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時や毎月のお便り等でご入居者の日頃の様子や体調の変化を報告し、ご本人とご家族の絆を大切に、共に本人を支えて行く関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でしたが、ご家族や親戚、友人等の訪問を歓迎しガラス越しの面会、訪問が困難な時は電話を掛けて頂いたり、テレビ電話で会話されたり、これまで大切にしてきた関係が継続できる様、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士、家事の参加やレク等で協力したり、楽しみを共有する事で、家族の様な関係を築き、お互い支え合って生活しておられます。必要に応じて職員が間に入り、良い関係を築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、様子伺い等を行い、ご家族からの各種相談には出来る限り応じられるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や言動から希望や意向を把握し、毎月のかわびら通信の中にご本人の思いを記入する欄を設けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、入居後も生活の中でのご本人との会話やご家族からの話を聞いて、これまでの生活歴や生活環境等を把握し、ケアに活かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や様子、職員間の情報共有や医療との連携によって、過ごし方や体調、有する力等の把握に努めています。ケアプラン見直しの際カンファレンスを行い、職員全員が現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェック表にて担当者がアセスメントを行い、ご本人の思い、楽しみ、困り事等を踏まえて原案を作成、職員全員参加のカンファレンス後、サービス担当者会議でご家族の意向を聞き、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録は、介護計画に沿ってご本人の思いや気付き、体調の変化等の記録を共有し、毎月個々にケア目標を立て、実践結果をケアプラン実施表に記録して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向に応じて、病院受診や福祉用具の相談等、柔軟な対応に努め、困難と思われる事でも、ニーズには出来る限り添える様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い時は日光浴をされ、夜はご近所のイルミネーションを楽しまれ、地域の理美容等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、週1回の往診の他、日頃からご入居者の体調を相談し、必要時には他の医療機関を紹介して頂いたり、24時間連絡体制を確保して、適切な医療を受けられる様支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師が定期的にテレビ電話にて体調の観察を行い、職員は看護師にご入居者の体調の変化や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院中や退院後の生活で困らない様に、サマリー等で病院との引継ぎをしっかりと行い、入院中は、家族、病院関係者との情報交換に努め、出来るだけ早期に退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて入居時に重要事項説明書等にて説明を行い同意を得ています。重度化した場合は、ご家族・かかりつけ医・職員で話し合い支援します。職員のこれまでの経験を活かせるよう、マニュアルの改訂を適宜行い、体制作りに取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置し、使用方法や急変時の対応方法についての訓練を行い、すべての職員が実践できるようにしています。急変や事故発生時は、すぐにホーム長、かかりつけ医に連絡し、指示の下対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年間計画を立て、火災、地震、水害、夜間、防犯を想定した訓練を毎月行っています。総合消防訓練には、消防署にも参加して頂き、運営推進会議でも報告し、地域との協力体制を築いています。また、非常用食料や備品のリストを基に備蓄し、職員全体が把握できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、否定せずに受け止め、相手を敬う言葉遣いで、トイレの声かけはさりげなくする等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安な気持ち等から、同じことを繰り返し尋ねてこられる方には、その都度思いを受け止め、安心できる言葉かけをしたり、希望を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、その方のペースを大切に過ごして頂けるよう、見守りや声かけをしながら希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合うように声かけ等の支援をしながら、洋服を選んで頂いたり、美容師さんに来て頂いて髪を切り、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食の盛り付けをお一人おひとりの力に合わせて、職員と一緒にして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた食事量、食事形態で提供し、必要な声かけや介助を行い、栄養面では主治医にも相談しています。脱水や熱中症にならない様、水分は必ず声かけをして摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時、ご本人の状態に応じた声かけや介助を行い、歯間ブラシを使用しながら磨き残しの確認をしています。定期的な歯科医の往診により、口腔内の点検や指導をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンに応じて、トイレの声かけや介助を行い、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄に向けて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの好みや状態に合わせて食事や飲料の工夫をし、食事や水分をしっかり摂って頂き、運動や歩行を行うことで、なるべく下剤に頼らないよう、予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりのニーズに添うよう、湯の温度や入浴時間の調整を行っています。入浴時は職員とのコミュニケーションの場にもなっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に応じて寝具や室温の調節を行い、眠れない方にはお話を聴き取る等、また天気の良い日は日光浴や外気浴をして、安眠の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を把握し、症状の変化に応じて主治医に相談し、調整をさせて頂いています。錠剤・散剤等、ご本人が飲みやすいように主治医に相談し、名前・日付等、声に出して確認しながら服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好みや生活歴等に応じて、盛り付けや洗濯物たたみ、新聞折り、塗り絵や歌、外気浴、散歩等、楽しみごとや役割の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、玄関先での外気浴、季節毎のドライブやお花見を計画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金はご家族が管理されていますが、その方の希望や力に応じて、ご家族との間できちんと説明がなされており、ご本人が納得の行くように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	来所が困難なご家族には、電話を掛けて頂けるようお願いしたり、テレビ電話でお話されたり、ご本人が安心して生活できるよう、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿温計を設置して、エアコンや床暖房、加湿器等で快適に過ごせる様調節し、季節感が感じられる様に、季節の花や作品を飾ったり、七夕やお雛様等、季節の飾りつけをして、居心地よく過ごして頂けるように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で好きなテレビを観たりして一人でゆっくり過ごしたり、食堂で気の合った入居者の方と談話する等、思い思いに過ごして頂けるような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのある物や思い出のある物等を置いて、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはそれぞれの身体状況に合わせて手すりを設置し、通路は歩行の妨げにならないよう整備して、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援しています。		